

プレスリリース

intersolar India 2017

2017年12月5日ー7日 インド・ボンベイ見本市会場

乾季中の驚くべき降雨にもかかわらず

INTER SOLAR INDIA 2017

質の高いソーラー業界関係者 1,3000 人以上を迎える

2017年12月11日

ムンバイ／プフォルツハイム／フライブルク、開催から9年の歴史の中で初めて inter solar India は、信じ難い気候変動を経験した。乾季にもかかわらずイベント開催中に驚異的な降雨が伴った。このような気候変動の影響にも関わらず、intersolar India には、予想した来場者数より10%も多い、合計13,000人以上ものソーラー、エネルギー貯蔵の専門家や業界関係者が参加した。241社を数える出展社はボンベイ見本市会場のホール1で最新製品とソリューションを紹介した。開会初日、政府高官はインド最大級のソーラー関連見本市と会議に参加することを表明した。見本市では、インドのソーラー市場の前向きな動きが目立つようになった。企業や投資家はネットワーク化の機会を最大限に活用し、多数の契約や協力関係が締結された。主催者はまた会議に出席した約800人が、およそ109人の講演者から見識を得たと、前向きに報じた。

2017年上半期のソーラーシェア31.9%と比較し、第3四半期末には太陽光発電の新設容量は39%を占めた。太陽が石炭に比べ安価である限り、太陽光発電は急速に発展しているエネルギー源として引き継ぎ、極めて大きい環境利益をもたらしている。第4半期は、アンチ・ダンピング措置の発動、不安定なモジュール価格、および低電力需要を考慮すると、ソーラーセクターにとって重要な4半期となる。政府政策者が長期的な視点に焦点を当て、現在の課題に対応するなら、太陽光発電が今後数年間の電力業界で最も魅力的な市場であり続けることは間違いない。intersolar India の公式ナレッジパートナーとして Mercom Capital グループの子会社である Mercom India は、intersolar India におけるインドの太陽光発電市場の課題と推進力について報告書を独占的に発表した。この報告書は、見本市のウェブサイトで見ることができ、太陽光発電がインドの次世代のエネルギー源であると強調している。

堅調なマーケット状況が非常に楽観的な雰囲気会場を作り出していた。13,000人を超える来場者と出展企業の241社は、持続的市場を成功させるのに最良な方法について実りある会話を交わした。出展社は intersolar India 2017 について見込み客を獲得し、商談を成立させ、永続的な関係を構築するのに理想的な見本市であると特徴づけた。ees(バッテリー・エネルギー貯蔵システム)そして Power2Drive を特別展示として併催し、インドにおけるエネルギー転換の次のステップを設けた。約50社がバッテリーおよびエネルギー貯蔵システムのソリューションを展示した。インドでのグリッドの安定化の重要性がますます高まっていることを示した。さらにバッテリー業界の専門家はプレゼンテーションステージでインドでの開発をより積極的に推進する方法につき見解を分かち合った。見本市では、業界の

専門家によって 30 以上のプレゼンテーションが無料プログラムとして開催された。出展社による多数のプレゼンテーションそしてミニ/マイクログリッド、e-モビリティ、PV 製造の他、グリーンジョブフォーラムではスキル・カウンスルが行われた。様々な新製品の発表、授賞式そして完売したネットワーキング・イベント「Solar Power Developers Night」は、見本市を重要なミーティングの場として、そしてインドの完全なソーラー・エネルギー貯蔵産業ビジネスの情報収集の場であると強調した。

さらに見本市と並行して開催されたハイレベルの会議「intersolar India Conference」に 109 人が講演し、800 人以上が参加した。開会式の挨拶の中で、政府高官がインド最大級のソーラー関連見本市と会議で講演することを表明した。intersolar India の賓客である国際ソーラー連合事務局長 Shri. Upendra Tripathy 氏、インド再生可能エネルギー公社 (IREDA) の会長兼マネージングディレクターの Kuljit Singh Popli 氏、非在来型エネルギー・農村技術局 (ANERT) の R. Harikumar 氏、ケララ州とシンガポール太陽光エネルギー研究機構 (SERIS) の Thomas Reindl 博士は、光点灯セレモニーと開会式で来場者を歓迎した。会議プログラムでは、インドの PV 市場、ルーフトップ・システム、融資、革新的技術、PV 品質保証、農地 PV、水上 PV 等、19 の刺激のかつ多様なセッションが盛り込まれた。

研修やワークショップでは、総合的なイベントプログラムが充実していた。White House Solar の Sean White 氏によって行われた 2 日間の PV 技術訓練集中講義では、電気及び PV 技術の基礎、種類の異なる PV システム、EPC 契約、実践的な PV システムのデモによる安全な設置方法につき伝えた。さらに、農業電化組合 (ARE) が主催するオフグリッド・ワークショップでは、現在の市場と政策、ビジネスチャンス、インドにおける地方電化プロジェクトを支援する技術的および財務的事項に関する展示が行われた。

インド政府は 2022 年までに 175GW の再生可能エネルギー導入するという、意欲的な目標を設定している。intersolar India がインドのソーラービジネスを結びつけ、インドのソーラー産業のための主力見本市及び会議となるのに完ぺきな場所である事を再び証明した。この見本市 intersolar では政府が 2020 年までに 175GW の再生可能エネルギー導入を達成することを支援している。

intersolar India の詳細情報はこちらから: www.intersolar.in

資料請求、出展申込み、各種お問い合わせ先:

株式会社メッセ・ミュンヘン・ジャパン

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-20-3 ノアーズアーク虎ノ門 5 階

Tel.: 03-6402-4583 Fax: 03-6402-4584 e-mail: japan@intersolarglobal.com

URL: www.messe-muenchen.jp (日本語)